

長浜に点在する 国宝群

歴史の薫り高いまち長浜には、447件もの指定文化財があり(県内2位)、現在5つの国宝を有しています。



▲木造十一面観音立像(向源寺蔵) 昭和28年3月31日国宝指定

木造十一面観音立像(向源寺蔵)

日本全国で数多く作られ、多くの人々の信仰を集めてきた十一面観音立像は、現在では国宝7躯、重要文化財225躯が残っています。

その中で、最も美しく日本彫刻史上の最高傑作といわれるのが、向源寺蔵の木造十一面観音立像です。

深い慈悲をたたえた表情には異国的な面影がたまたよい、首、胴、腿の身体を三つに曲げる「トリバンガ(三屈法)」と呼ばれる、動きをつけ美しさを際立たせる手法が用いられています。

仏体が黒いのは、今から480〜430年前にかけての戦いで、何度か土中に埋められ、下地の漆だけが残ったためとされています。

【所在地】高月町渡岸寺50

【問合せ】渡岸寺観音堂国宝維持保存協賛会(☎512632)

宝蔵寺唐門

宝蔵寺は、竹生島にある真言宗豊山派の寺院で、「唐門」とは唐破風をもつ門という意味です。この唐門は、秀吉を祀った豊国廟(京都)にあった大坂城の「極楽門」を移築したも



▲宝蔵寺唐門 昭和28年3月31日国宝指定 建築年代: 桃山 慶長8年(1603)移築

のと見られています。檜皮葺き、建物全体は総黒漆塗り、金鍍金の鍔金具が散りばめられ、豪華絢爛を特徴とする桃山時代を代表する建造物です。

平成18年にオーストリアのエッゲンベルグ城で発見された「大坂城図屏風」に豊臣大坂城の姿が描かれており、本丸北側にかかれた「極楽橋」の正面部分が唐門であるとみられ、秀吉が建てた大坂城の現存唯一の遺構ではないかと注目を集めています。

現在は修復中(平成31年竣工予定)ですが、拝観はできません。

【所在地】早崎町竹生島

【問合せ】宝蔵寺(☎6314410)

法華経序品(竹生島経)
「法華経」は、大乘仏教の重要な經典の一つです。竹生島の宝蔵寺に伝来したことから、「竹生島経」とも呼ばれます。
末法の世の到来を恐れた貴族の間で法華経の写経が盛んとなり、書写する紙を美しく飾ることも行われました。装飾を施した經典を「装飾経」といい、竹生島経は、平安時代の装飾経を代表するものです。
竹生島経は、他に東京国立博物館所蔵の第二品方便品(国宝)があり、両者は別々に伝来しましたが、序品の終わりと方便品の始めに同じ形の虫食い穴が続いているため、2つは本来一巻きの巻物であったと推定されています。



▲法華経序品(竹生島経)

【所在地】早崎町竹生島

【問合せ】宝蔵寺(☎6314410)

都久夫須麻神社本殿

都久夫須麻神社は、「日本三大弁才天」の一つに数えられ、中でも日本最古の弁才天として知られています。

本殿は、建物中心部の身舎と周辺部の庇とが別々に造られたもので、年代の異なる2つの建物を1棟に合わせたものです。

本殿は、永禄元年(1558)の火災で焼失しましたが、永禄10年(1567)に再建され、これが現在の庇と向拝の部分(社殿の屋根の中



▲都久夫須麻神社本殿 昭和28年3月31日国宝指定

央が前方に張り出した部分)となっています。身舎部分は慶長7年(1602)に豊臣秀頼によって移築されたといわれていますが、どこから移築されたのかは推測の域を出ていません。古くは伏見城の遺構といわれてきましたが、隣接する宝蔵寺の唐門が秀吉を祀る豊国廟の遺構であることから、都久夫須麻神社の本殿も同じく豊国廟から移築されたというのが、主な見解とされています。

狩野光信の筆と伝えられる花木図が描かれた襖絵、精緻な鍔金具が施された柱、色彩画が描かれた折上格天井など、随所に桃山美術の粋を見ることができ、その豪華さや美しさは、桃山文化の最高峰といわれる日光東照宮にも匹敵します。

【所在地】早崎町竹生島

【問合せ】都久夫須麻神社(☎7212073)

金銀鍍透彫華籠

華籠は、法会(僧侶が集まって説法や読経を行う会)に際しての散華(花びらを撒く)の儀式に使われた盛花器です。

神照寺のものは銅製で、底に3か所の吊金具をつけて、組紐を垂らす



▲金銀鍍透彫華籠 昭和27年11月22日国宝指定 直径28.34~28.8cm

ようにしています。

内部は、銅の円盤を打ち出して、宝相華唐草文(唐草に様々な美しい花を組み合わせた架空の花の文様)を透かし彫りにしています。金を主体として銀も使って表面を装飾しており、大変華やかな華籠です。

神照寺には、宝相華の文様や透かし彫りが異なる2種類16枚の華籠が伝わり、平安時代から鎌倉時代にかけての極めて優れたものです。

現存する華籠のうち、デザイン、技術ともに最も優れており、日本の金工品として最高水準のものといわれています。

【所在地】新庄寺町323

【問合せ】神照寺(☎6211629)

新指定文化財展」を開催します

村家住宅」の関連資料や、市指定文化財に指定された地侍文書「加藤家文書」を紹介します。

【と き】9月8日(土)~10月14日(日) 会期中無休

【ところ】長浜城歴史博物館

【入館料】高校生以上400円、小中学生200円 (長浜市・米原市内の小中学生無料)

問合せ 長浜城歴史博物館(☎63-4611)

企画展「菅浦文書国宝指定記念

県内52年ぶり、市内では64年ぶりの国宝誕生を記念して、企画展「新指定文化財展」を開催します。

この展覧会では、菅浦文書総数1,281点のうち、代表的な絵図と古文書の一部を展示し、中世惣村としての菅浦の姿をいきいきと描く古文書群と、国選定重要文化的景観で日本遺産にも登録されている集落の魅力に迫ります。

併せて、重要文化財に指定される代官屋敷「中